

日本中国学会会報

NIPPON CHŪGOKU GAKKAI

1996年(平成8年)

11月11日

第2号

〒113 東京都文京区湯島1-4-25 斯文会館 電話 03-3251-4606
FAX 03-3251-4853

大会を終えて

理事長 石川忠久

第48回大会も盛況裡に終えることができた。尾上代表をはじめとする神奈川大学の準備会の皆様方の御労苦には、ここにあらためて感謝申し上げる。

私も時間の許す限り研究発表を聴くようにしたが、若い人たちがよく勉強して周到な用意を以て発表に臨んでいる様子が伺え、心強く思ったことである。ただ、この勢いが持続、発展していくかどうか問題である。大会で発表した人、学会報に論文が載った人、学会賞を受賞した人は殊に、次の年からは必ず大会に参加して(更には懇親会にも出席して)会を盛り上げるようにしてもらいたい。そういう心構えを持つことが学会の発展に繋がり、本人の向上にも結びつくものと思う。

要は、学会は自分たちのもの、と捉えて関わっていくという態度が肝要なのである。そうであれば、役員選挙の投票率の悪さなど、いっぺんに解消してしまう。

選挙といえば、来年早々、評議員から始まって、理事、理事長と決める選挙がある。次期の執行部はいよいよ学会創立五十年の諸行事を担当することになる。準備会はすでに今期よりスタートしているが、実際に衝に当たるとなるとたいへんで、今からご苦勞を労っておきたい。

五十年という節目は、やはり大きい。総会で加地理事より出された諸規約の見直しの提案は、出るべくして出た感が深い。五十年経っているいろいろな歪みが生じているのである。会員の増加に伴う運営の負担増の問題、学術専門委員のバランス(専門分野・年齢構成・男女比など)の問題、国際対応の問題等々、見直すべき点が多々出てきているので、今期のうちに問題点を整理し、次期に申し送ることになった。

ここで、私の個人的な試案の二、三を述べ、会員各位へアドバルーンとして掲げよう。

- 大会は東京地区に固定し、運営の雑務は然るべき機関に委託する(当番校、役員、幹事を雑務より解放し、負担を軽くする)。
 - 国際対応委員会を組織し、対外的なプログラムを、大会とは別に、地方で開催するようにする。
 - 現在の哲学・思想、語学・文学の二分科会に、近現代分科会(哲学・文学こみ)を加えて三分科会とする。
 - 学術専門委員を30名(現行25名)に増やし、半数を理事長指名とする(これによってバランスをとる)。
 - 評議員の一定の人数を女性に割当てる。
- 独断、横暴の誇りは甘受するところ。会員各位もこれに相応じて建設的な意見をどしどし寄せていただきたい。とにかく何か動き始めようではないか。

10月12日の総会における決定事項及び諸報告は次の通り。

【議決事項】

- (1) 平成8年度事業計画は承認されました。これに伴う収支予算書(案)は平成7年度決算との関係から、一部修正変更が起り得ることを確認した上で承認されました。
- (2) 次年度の大会開催校は、大阪市立大学に(10月18日(土)・19日(日)の開催予定)、また平成10年度の大会開催校は早稲田大学に決定しました。

【諸報告及び関連事項】

- (1) 平成8年度の選挙管理委員は、次の各氏に委嘱されました。(※は重任)
 - (理事) *佐藤 保(委員長)
 - (評議員) 池田知久・*丸尾常喜
 - (一般会員) *市川桃子・*謡口 明・河内利治・中林史朗・*森 由利亜
- (2) 『学会報』第49集の編集担当校は、日本大学(責任者は今西凱夫会員)に委嘱されました。第49集の〈学会消息〉欄の原稿は、記入責任者から日本大学文理学部中国文学研究室(〒156 東京都世田谷区桜上水3-25-40)宛にお送り下さい。資料は平成8年1月から12月までのものと(

『学会報』第49集の〈学界展望〉執筆校は以下の通りです。

哲 学 二松学舎大学文学部・代表：戸川芳郎会員
(〒102 東京都千代田区三番町6-16)

文 学 桜美林大学文学部中国語中国文学研究室・代表：山崎純一会員
(〒194-02 町田市常盤町3758)

語 学 大阪外国語大学中国語共同研究室・代表：佐々木猛会員
(〒175 大阪府箕面市大字栗生間谷2734)

著書及び論文抜刷などの資料を平成9年1月末日までに上記各研究室宛お送り下さい。掲載資料は平成8年1月から12月までのものとします。

〈学界展望〉につきましては、資料現物の送付とは別に、会員各自同封の用紙(二種類あり)により自己申告していただくことになっております。申告なさる方は、用紙に記入の上、同封の封筒を利用して明年1月末日までにご返送下さい。郵送費は各自ご負担願います。なお、申告が無い場合は、掲載漏れとなることがありますのでご注意下さい。また、研究論文目録として掲載不相当と思われるものは、執筆担当校の判断で割愛されることもあります。

- (3) 『学会報』の掲載論文公募について
 - 締切日 平成9年1月31日(当日消印有効)
 - 枚 数 本文・注・図版等あわせて400字詰原稿用紙55枚以内
 - 要 旨 400字詰原稿用紙5枚以内を添付する。

応募者は『日本中国学会報』巻末の〈論文執筆要領〉を遵守して下さい。(原稿は必ず郵送のこと。本部持込みは受理しません。)尚、投稿原稿は返却致しません。

- (4) 本年度の日本中国学会賞は、以下の会員が授賞されました。
 - 哲学部門 垣内 景子会員(青山学院大)
 - 文学部門 趙 京 華会員(一橋大大学院)
 理事長より賞状と賞金(8万円)が贈られました。
- (5) 下記の日程で日本学術会議哲学系公開シンポジウム「こころ」が開催されます。当学会から加地伸行会員が推薦され、提題者として講演されます。奮って御参加下さい。
 - 日時 平成8年12月10日(火)午後1時～5時
 - 会場 日本学術会議大会議室(東京都港区六本木7-22-34 Tel.03-3403-6291)
- (6) 下記の日程で日本学術会議語学文学研連主催シンポジウム「第2回21世紀を迎える漢字文明」が開催されます。当学会から松岡榮志会員が推薦され、提題者として講演されます。奮って御参加下さい。
 - 日時 平成9年2月6日(木)午後1時～5時
 - 会場 日本学術会議講堂(東京都港区六本木7-22-34 Tel.03-3403-6291)

計 報

会報第1号発行以後、次の3名の会員が逝去されました。
果 荃 英 (関東) 土屋 泰男 (関東) 真武 直 (九州)
総会の席上、上記の方々と会報第1号に掲載の方々に対し黙祷が
捧げられました。

◎会員名簿の地区区分について

会員の地区は名簿裏表紙に記載のとおり所属機関の所在地により区分しております。しかし今度の名簿発行にあたり一部混乱がありましたことをお詫びいたします。10月12日付で本部名簿を整理しましたので、ご承知おきください。

◎会費納入について

会費未納の方には振替用紙を同封致しますので、至急ご送金願います。なお、数年にわたって未納の方は特にご注意願います。(振替：00160-9-89927)

◎『学会報』送付停止について

会費未納が2年に達した方には『学会報』を送付致しません。会費納入が確認され次第、配布いたします。また、納入の際には、振込用紙裏面に未送付の『学会報』の号数をご注記下さい。

◎新入会の申し込みについて

次回の新入会員の審査は平成9年度第1回理事会(5月開催)に於いて行われます。入会申込書は平成9年4月末日までにご送付下さい。

◎住所変更について

住所・所属機関等の変更は速やかにご通知下さい。

○下記の住所不明者について、御存知の方があれば、お手数でも御一報願います。

浅野純一・石川英昭・遠藤光代・王碩・加島政和・神野恭行・川島優子・金世中・寺田るり子
盧瑞容

平成8年度文部省科学研究費採択状況一覧

○重点領域研究

東アジア国際関係の変容と中国の対外認識をめぐる歴史的研究(120万円)

茂木敏夫(静岡県立大学)

○基盤研究(A)

中国における文学史観の形成と展開(370万円)

川合康三(京都大学)

中洲三島毅の学問・思想・文芸と生涯に関する研究(770万円)

戸川芳郎(二松学舎大学)

○基盤研究(A)(継続)

転形期における中国の知識人(140万円)

小谷一郎(埼玉大学)

中国江南における都市文芸形成の総合的研究(320万円)

尾上兼英(神奈川大学)

○基盤研究(B)

道教内丹学の形成と展開についての語彙および図像論的研究(120万円)

蜂屋邦夫(東京大学)

○基盤研究(B)(継続)

中国古代中世における女性史関係資料についての歴史的思想史的研究(20万円)

下見隆雄(広島大学)

黄宗羲の『明儒学案』成立に関する基礎的研究(200万円)

柴田 篤(九州大学)

薩摩藩所蔵の漢籍に関する総合的研究(150万円)

東 英寿(鹿児島大学)

総合的漢字研究のための『説文解字』のデータベース化と、それを利用した基礎的研究

(210万円)

藤山和子(お茶の水女子大学)

中国現代文学の多元的展開と地域的特質に関する研究(110万円)

岡田英樹(立命館大学)

○基盤研究(C)

1860年代中国の西洋認識と斌椿使節団に関する研究(50万円)

手代木有兒(福島大学)

伝統文化の構造分析において「経学的歴史観」という概念のもつ有効性についての研究(160万円)

関口 順(埼玉大学)

啖助・趙匡・陸淳らを中心とする唐代春秋学の基礎的研究(80万円)

齋木哲郎(鳴門教育大学)

人種と進化と科学の言説を通してみた近現代中国の自己規定の在り方(100万円)

坂本ひろ子(東京都立大学)

『分類杜工部詩諺解』注解類の系統に関する研究(220万円)

成澤 勝(東北大学)

近代中国における「国語」問題(80万円)

村田雄二郎(東京大学)

唐代古文における地方言語文化の受容に関する研究(110万円)

戸崎哲彦(滋賀大学)

初期の楽府と楽府詩(100万円)

釜谷武志(神戸大学)

地方劇「包公案」の基礎的研究(100万円)

阿部泰記(山口大学)

「長恨歌」からの『長生殿』に至る楊貴妃故事の演変史研究(100万円)

竹村則行(九州大学)

琉球官話課本の研究(90万円)

瀬戸口律子(大東文化大学)

○基盤研究(C)(継続)

「童謡」と娑婆星伝説の基礎的研究-後漢以後における讖緯説の展開(40万円) 串田久治(愛媛大学)

雲笈七籤の基礎的研究(60万円)

中嶋隆藏(東北大学)

墨家と孟子の交渉についての思想史的研究(50万円)

吉永慎二郎(秋田大学)

画像資料を中心とした神仙思想の研究(30万円)

小南一郎(京都大学)

中国中世における信仰意識の形成についての基礎的研究(60万円)

山田利明(東洋大学)

禅宗相伝資料・切紙資料を中心とする日本中世仏教の社会的機能に関する研究(50万円)

石川力山(駒沢大学)

漢字法音法における「反切」の実際的研究(30万円)

花登正宏(東北大学)

漢訳仏典に見られる口語の研究(70万円)

長尾光之(福島大学)

唐代文学の研究-特に詞の源流に関して-(40万円)

戸倉英美(東京大学)

清朝における科举制度と文学との関係についての研究(30万円)

高津 孝(鹿児島大学)

十九世紀ヨーロッパに於ける中国文学の受容(60万円)

市川桃子(明海大学)

○萌芽的研究

魏晉南北朝期の山川遊記・紀行文の思想史的研究-地理的世界観との関わりを中心に-(120万円)

薄井俊二(埼玉大学)

中国近世の日用類書に関する初歩的準備的研究(150万円)

坂出祥伸(関西大学)

○奨励研究(A)

中国明清道教資料の基礎的研究(90万円)

横手 裕(京都大学)

唐代道教文献の「經」と「論」について(100万円)

山田 俊(熊本県立大学)

北宋期の士大夫社会における「公」の観念に関する研究(90万円)

名畑嘉則(藤女子大学)

30年代上海のモダニズム運動に関する研究(100万円)

牧 陽一(埼玉大学)

胡適档案資料による工読互助団の社会文化史的研究-読者組織の視点から-(100万円)

清水賢一郎(北海道大学)

東晉南朝期の会稽における貴族隠棲の実相の検証および画像による資料整理の試み(80万円)

佐藤正光(東京学芸大学)

日本に伝存する古楽譜資料を利用した中国戯曲演劇研究(110万円)

加藤 徹(広島大学)

詩と絵画の交渉から見た中国の文学・芸術論における「情」と「景」の問題に関する研究(100万円)

浅見洋二(山口大学)

白居易を中心とする中唐期の詩壇と読者層の研究(90万円)

静永 健(久留米大学)

青銅器銘文に於ける韻文と石鼓文の研究(100万円)

篠田幸夫(二松学舎大学)

文献資料に現れた「南京官話」の概念とその実体(80万円)

木津祐子(同志社女子大学)

中国語諸方言の舌尖母音韻母の成立に関する音声学的研究(100万円)

池田 巧(立教大学)

○奨励研究(B)

群馬県法雲山華蔵寺獅子園書庫所蔵漢籍の書誌的研究(21万円)

山本 仁(文部省)

○国際学術研究[代表者](継続)

東アジアにおける情報伝達と人間移動-南北の比較研究(610万円)

中嶋幹起(東京外国語大学)

19世紀中葉以前における日中文化交流史の総合的研究(170万円)

高橋 稔(山形大学)

○研究成果公開促進費

日本中國學會報(49万円)

出三蔵記集序巻訳注(90万円)

中嶋隆藏(東北大学)

日本の近世と老荘思想(90万円)

大野 出(帯広大谷短期大学)

中国小説の物語論的研究(50万円)

中里見 敬(東北大学)

南朝の門閥貴族と文学(50万円)

佐藤正光(東京学芸大学)

「旧鈔本を中心とした 白氏文集本文の研究」(800万円)

太田次男(慶應義塾大学)

日本中国学会
平成7年(1995年)度収支決算書

(単位=円)

収入の部	科 目	決 算	予 算	比 較 増 減
	1. 前年度繰越金		1,235,235	1,235,235
2. 会員会費		9,326,204	8,700,000	626,204
3. 文部省刊行助成金		490,000	490,000	-
4. 寄付金		820,000	780,000	40,000
5. 預金利息		44,035	20,000	24,035
合 計		11,915,474	11,225,235	690,239

支出の部	科 目	決 算	予 算	比 較 増 減	△は増
	1. 総務費		1,765,093	1,954,000	188,907
(1) 印刷費		428,171	350,000		△ 78,171
(2) 通信費		695,975	800,000		104,025
(3) 交通費		51,550	60,000		8,450
(4) 消耗品費		93,714	300,000		206,286
(5) 庶務処理費		200,000	200,000		0
(6) 雑費		151,683	100,000		△ 51,683
(7) 業務委託料		144,000	144,000		0
2. 人件費		1,619,000	1,630,000	11,000	
(1) 幹事手当		780,000	780,000		0
(2) 謝金		839,000	850,000		11,000
3. 会議費		1,603,087	1,650,000	46,913	
(1) 会議費		510,787	550,000		39,213
(2) 役員旅費		1,092,300	1,100,000		7,700
4. 事業費		5,305,470	5,300,000	△ 5,470	
(1) 学会報等刊行費		4,405,470	4,400,000		△ 5,470
イ 印刷費		3,105,450	3,100,000		△ 5,450
ロ 編集費		750,000	750,000		0
ハ 翻訳謝金		150,000	150,000		0
ニ 発送費		400,020	400,000		△ 20
(2) 学術大会運営費		600,000	600,000		0
(3) 委員会等運営費		300,000	300,000		0
5. 予備費		-	191,235		-
6. 創立記念事業積立金		500,000	500,000		-
7. 次年度繰越金		1,122,824	-		-
合 計		11,915,474	11,225,235		-

特 別 会 計

基本金	5,000,000	基本金	5,000,000	備 考	奥野基金	500,000		
収入の部	前年度繰越金	823,162	支出の部		日本中国学会賞	240,000	佐藤基金	200,000
	普通預金利息	87,654			次年度繰越金	670,816	池田基金	300,000
	信託収益金				合 計	910,816	積立基金	4,000,000
合 計	910,816							

創立五十年記念事業積立金

平成6年度	3,000,000	
平成7年度積立金	500,000	
合 計	3,500,000	

上記の通り相違ないことを認めます。

平成8年4月19日

日本中国学会監事

内山知也

中野 達

(印省略)

収入の部	科目	予算	前年度決算	摘要
	1. 前年度繰越	1,122,824	1,235,235	1,860人納入見込み
	2. 会員会費	9,300,000	9,326,204	
	3. 文部省刊行助成金	490,000	490,000	
	4. 寄付金	800,000	820,000	
	5. 預金利息	40,000	44,035	
合計	11,752,824	11,915,474		

支出の部	科目	予算	前年度決算	摘要
	1. 総務費	2,004,000	1,765,093	斯文会
	(1)印刷費	450,000	428,171	
	(2)通信費	750,000	695,975	
	(3)交通費	60,000	51,550	
	(4)消耗品費	200,000	93,714	
	(5)庶務処理費	200,000	200,000	
	(6)雑費	200,000	151,683	
	(7)業務委託料	144,000	144,000	
	2. 人件費	1,630,000	1,619,000	30,000/月 + 慰労金
(1)幹事手当	780,000	780,000		
(2)謝金	850,000	839,000		
3. 会議費	1,750,000	1,603,087		
(1)会議費	550,000	510,787		
(2)役員旅費	1,200,000	1,092,300		
4. 事業費	5,500,000	5,305,470		
(1)学会報等刊行費	4,600,000	4,405,470		
イ印刷費	3,200,000	3,105,450		
ロ編集費	750,000	750,000		
ハ翻訳謝金	150,000	150,000		
ニ発送費	500,000	400,020		
(2)学術大会運営費	600,000	600,000		
(3)委員会等運営費	300,000	300,000		
5. 予備費	368,824	-		
6. 創立記念事業積立金	500,000	500,000		
7. 次年度繰越金	-	1,122,824		
合計	11,752,824	11,915,474		

特別会計

学会基金

基本金		5,300,000	基本金		5,300,000	備考	奥野基金	500,000
収入の部	前年度繰越金	670,816	支出の部	日本中国学会賞	160,000		佐藤基金	200,000
	普通預金利息	80,000		次年度繰越金	590,816		池田基金	300,000
	信託収益金						伊藤基金	300,000
合計	750,816	合計	750,816	積立基金	4,000,000			

創立五十年記念事業積立金

平成7年度迄	3,500,000	
平成8年度積立金	500,000	
合計	4,000,000	